

1. 需給見通し

農林水産省は、「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」(昭和40年法律第109号)により、四半期ごとに砂糖および異性化糖の需給見通しを公表している。令和3年9月に「令和3砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し(第1回)」を公表した。

令和3砂糖年度(10月～翌9月)の見通し

【砂糖】

総消費量：177万5000トン(前年度比1.2%増)

総供給量：176万8000トン(同2.4%減)

【加糖調製品】

消費量および供給量：45万6000トン(前年度同)

【異性化糖】

消費量および供給量：81万1000トン(前年度比7.0%増)

(1) 砂糖の消費量

令和2砂糖年度(10月～翌9月、以下同じ)の砂糖の消費量は、175万4000トン(前年度比0.1%減)と見込んでいる(表1)。内訳を見ると、分みつ糖の消費量が171万9000トン(同0.1%減)、含みつ糖の消費量が3万5000トン(前年度同)の見込みである。

3砂糖年度の砂糖の消費量は、177万5000トン

(前年度比1.2%増)と見通している(表1)。内訳を見ると、分みつ糖の消費量は、引き続き新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響は見込まれるものの、ワクチン接種の進展による経済活動の回復が想定されることから、174万トン(同1.2%増)、含みつ糖の消費量は、近年の消費動向などを勘案し、3万5000トン(前年度同)と見通している。

表1 令和3砂糖年度における砂糖の需給見通し

(単位：千トン)

		令和2砂糖年度 (実績見込み)	令和3砂糖年度				合計	
			10月-12月	1月-3月	4月-6月	7月-9月		
消費量	分みつ糖	1,719	463.8	408.8	433.4	434.0	1,740	
	含みつ糖	35	7.3	11.6	9.3	7.1	35	
	合計	1,754	471.1	420.4	442.7	441.1	1,775	
供給量	国内産糖	分みつ糖	769	362.4	360.3	44.1	-	767
		含みつ糖	10	1.1	7.7	1.4	-	10
		小計	779	363.5	368.0	45.5	-	777
	輸入糖	分みつ糖	1,025	248.0	162.0	292.9	280.4	983
		含みつ糖	8	1.7	3.4	2.1	0.9	8
		小計	1,033	249.7	165.4	295.0	281.3	991
	合計	分みつ糖	1,794	610.4	522.3	337.0	280.4	1,750
		含みつ糖	18	2.8	11.1	3.5	0.9	18
		小計	1,812	613.2	533.4	340.5	281.3	1,768
期末在庫		404	546.1	659.1	556.9	397.1	397	

資料：農林水産省「令和3砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し(第1回)」

注1：分みつ糖は精糖ベースの数量、含みつ糖は製品ベースの数量である。

注2：輸入糖の分みつ糖供給量は、機構売買数量である。

(2) 砂糖の供給量

令和2砂糖年度の砂糖の供給量は、181万2000トン（前年度比0.1%増）と見込んでいる。内訳を見ると、分みつ糖が179万4000トン（同0.1%増）、含みつ糖が1万8000トン（同5.3%減）の見込みである。

令和3砂糖年度の砂糖の供給量は、176万8000トン（前年度比2.4%減）と見通している。内訳を見ると、分みつ糖の供給量は175万トン（同2.5%減）、含みつ糖は1万8000トン（前年度同）と見通している。国内産糖（分みつ糖）の供給量は、てん菜糖については、てん菜の作付面積が前年産と比べ1.3%（約760ヘクタール）増加し、作柄についても6月下旬以降平年より気温が高く、降水量が少ない状態が続き生育への影響が懸念されたものの、8月のまとまった降雨以降、回復傾向にあることから、平年並みの生育を見込んでおり、産糖量は63万5500トン（前年産比0.7%増）、供給量は63万4000トン（精製糖換算〈以下同じ〉。前年度

比0.7%増）と見通している。甘しや糖については、サトウキビの作付面積が前年産に比べ3.4%（約760ヘクタール）増加し、作柄についても、一部の島において干ばつ傾向で推移した時期もあったがその後適度な降雨もあり、現時点では台風被害も少ないことから、全体としては前年ほどではないものの、おおむね順調な生育と見込んでいる。産糖量は13万9000トン（前年産比4.8%減）、供給量は13万3000トン（前年度比4.8%減）と見通している。

(3) 加糖調製品の需給

令和3砂糖年度の加糖調製品の消費量は、COVID-19による外出自粛の影響により、直近では需要が減少しているものの、ワクチン接種の進展による経済活動の回復が想定されることから、45万6000トン（前年度同）と見通している（表2）。また、供給量は消費量に見合った量が供給されると見通している。

表2 令和3砂糖年度における加糖調製品の需給見通し

（単位：千トン）

	令和2砂糖年度 （実績見込み）	令和3砂糖年度				
		10月-12月	1月-3月	4月-6月	7月-9月	合計
消費量	456	111.8	116.9	115.4	111.9	456
供給量	456	111.8	116.9	115.4	111.9	456

資料：農林水産省「令和3砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」

注1：改正糖価調整法（平成30年施行）に基づき調整金の対象とされた加糖調製品を対象としている。

注2：消費量は対象となる加糖調製品の輸入量（財務省貿易統計より算出）を踏まえて見通しており、供給量は消費量に見合った量が供給されるものとして見通している。

注3：令和3砂糖年度の消費量は、令和2砂糖年度および令和元砂糖年度の輸入実績を踏まえて見通している。

(4) 異性化糖の需給

令和3砂糖年度の異性化糖の消費量は、COVID-19による外出自粛の影響が懸念される一方、ワクチン接種の進展を前提とした上で、飲食店での酒類提供やイベント規制の緩和が検討されており、需

要の一定程度の回復が想定されることから、81万1000トン（前年度比7.0%増）と見通している（表3）。また、供給量は消費量に見合った量が供給されると見通している。

表3 令和3砂糖年度における異性化糖の需給見通し

（単位：千トン）

	令和2砂糖年度 （実績見込み）	令和3砂糖年度				
		10月-12月	1月-3月	4月-6月	7月-9月	合計
消費量	758	177.0	184.3	234.2	215.4	811
供給量	758	177.0	184.3	234.2	215.4	811

資料：農林水産省「令和3砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」

注：標準異性化糖（果糖55%ものの固形ベース）に換算した数量である。

2. 輸入動向

【粗糖の輸入動向】

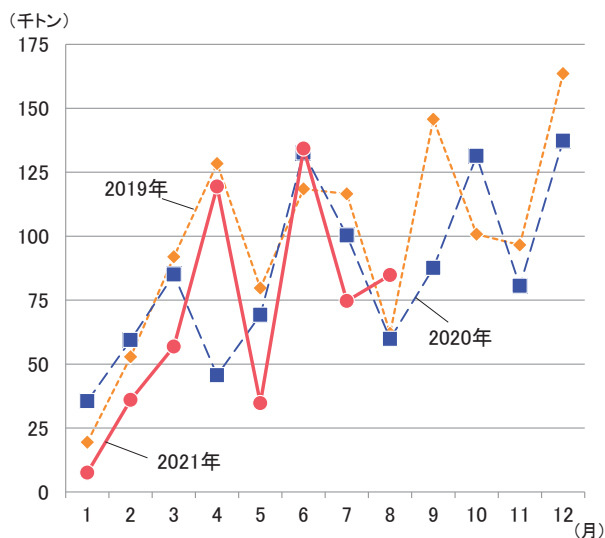
8月の輸入量は前年同月から大幅に増加

財務省「貿易統計」によると、2021年8月の甘しや糖・分みつ糖（HSコード1701.14-110）および甘しや糖・その他（同1701.14-200の豪州）の輸入量は、8万4810トン（前年同月比41.9%増、前月比13.6%増）であった（図1）。

輸入先国は甘しや糖・分みつ糖については輸入実績が無く、甘しや糖・その他については豪州で、国別の輸入量は次の通りであった（図2）。

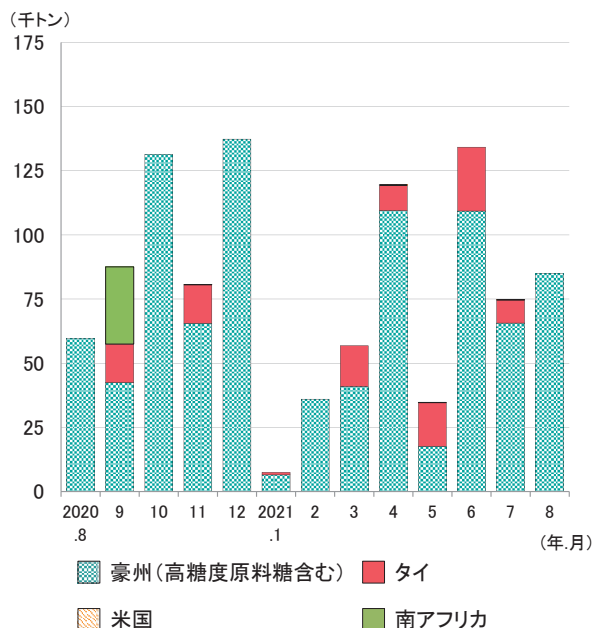
豪州 8万4810トン
（前年同月比41.9%増、前月比29.1%増）

図1 粗糖の輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.14-110、1701.14-200（豪州のみ）

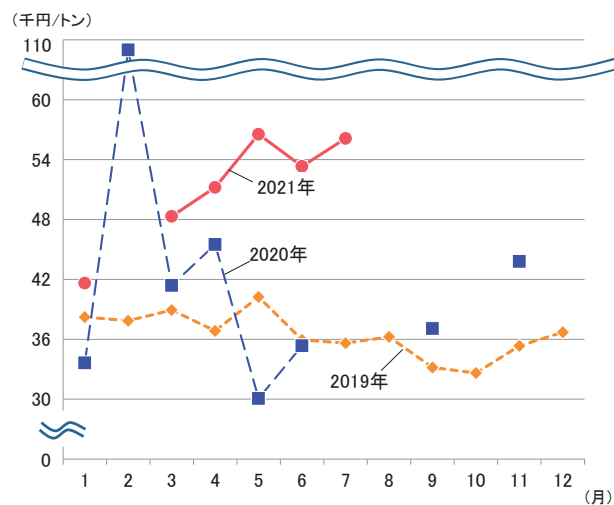
図2 粗糖の国別輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.14-110、1701.14-200（豪州のみ）

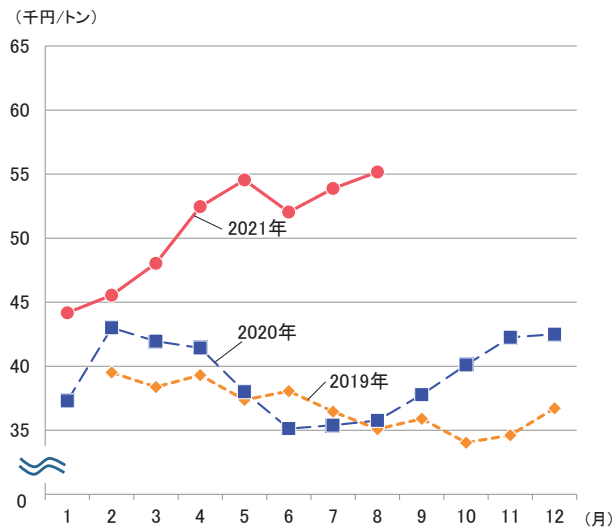
2021年8月の甘しや糖・その他の豪州からの高糖度原料糖の1トン当たりの輸入価格は、5万5164円（前年同月比54.2%高、前月比2.4%高）であった（図4）。

図3 粗糖(HSコード1701.14-110)の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：2020年7月、8月、10月、12月、2021年2月および8月は輸入実績なし。

図4 高糖度原料糖（HSコード1701.14-200の豪州）の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：2019年1月は輸入実績なし。

【含みつ糖の輸入動向】

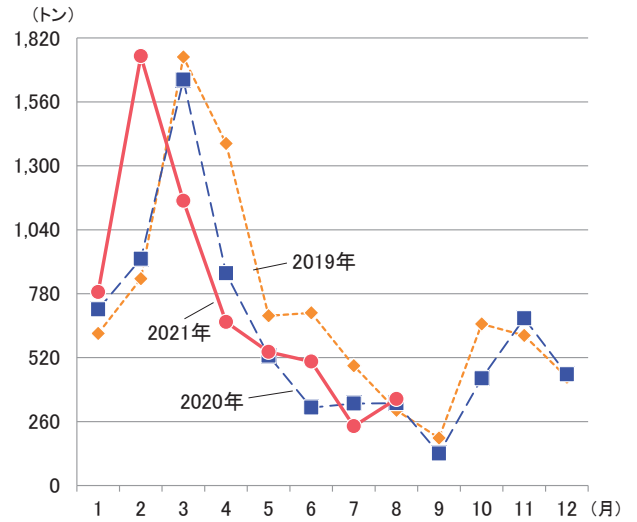
8月の輸入量は前年同月からやや増加

財務省「貿易統計」によると、2021年8月の含みつ糖(HSコード1701.13-000、1701.14-190)の輸入量は、352トン（前年同月比5.1%増、前月比46.1%増）であった（図5）。

輸入先国は中国、フィリピン、モーリシャスおよびインドの4カ国で、国別の輸入量は次の通りであった（図6）。

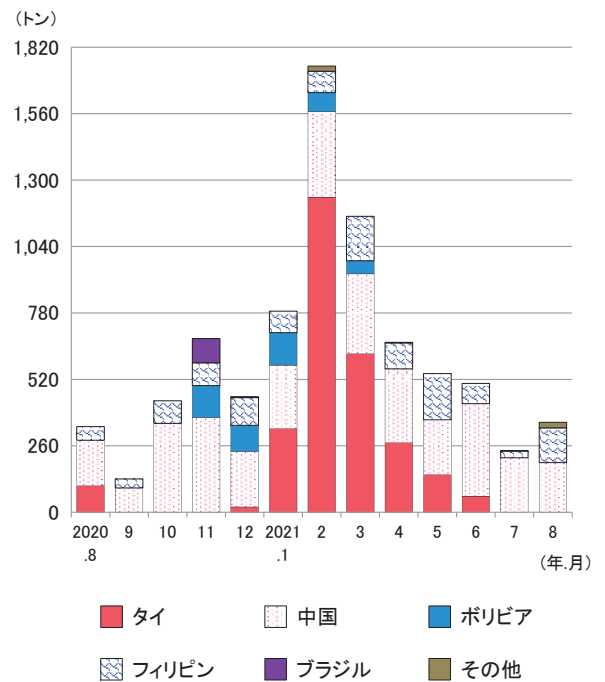
中国	194トン
（前年同月比9.6%増、前月比8.9%減）	
フィリピン	136トン
（同2.6倍、同5.0倍）	
モーリシャス	20トン
（前年同月および前月輸入実績なし）	
インド	2トン
（前年同月輸入実績なし、前月比2.0倍）	

図5 含みつ糖の輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

図6 含みつ糖の国別輸入量の推移



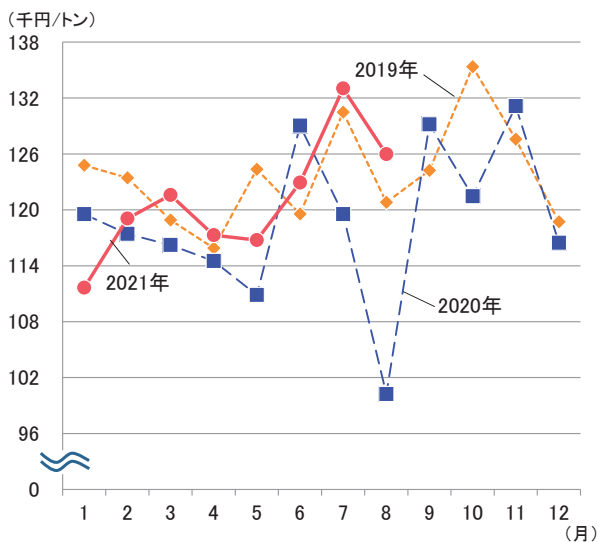
資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

2021年8月の1トン当たりの輸入価格は、12万5963円（前年同月比25.7%高、前月比5.3%安）であった（図7）。

国別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

中国 12万3995円
 (前年同月比5.9%高、前月比2.8%高)
 フィリピン 12万9449円
 (同0.9%高、同41.8%安)
 モーリシャス 10万700円
 (前年同月および前月輸入実績なし)
 インド 33万2500円
 (前年同月輸入実績なし、前月比7.4%安)

図7 含みつ糖の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
 注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

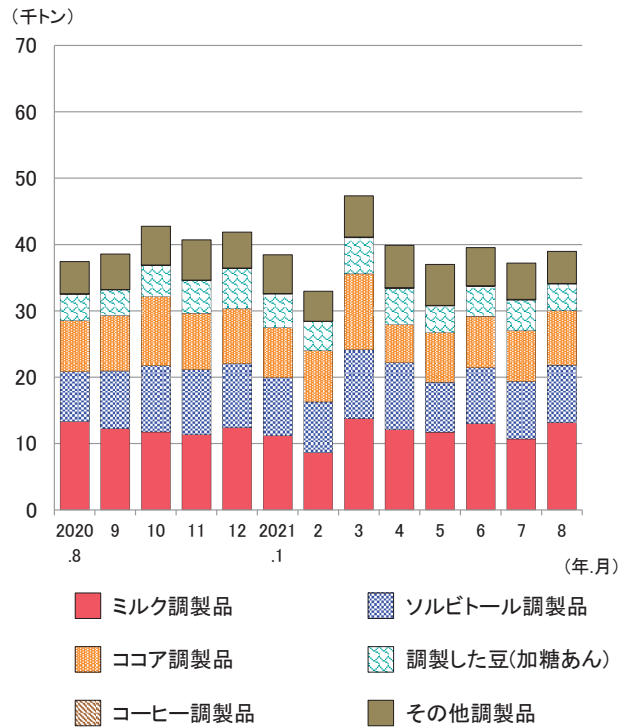
【加糖調製品の輸入動向】

8月の加糖調製品の輸入量は前年同月からやや増加

財務省「貿易統計」によると、2021年8月の加糖調製品の輸入量は、3万8962トン（前年同月比4.1%増、前月比4.7%増）であった（図8）。

品目別の輸入量は、表4の通りであった。

図8 加糖調製品の品目別輸入数量の推移



資料：財務省「貿易統計」
 注：各品目のHSコードは、次の通り。
 ココア調製品：1806.10-110、1806.10-190、1806.20-112、1806.20-113、1806.20-121、1806.20-129、1806.32-212、1806.32-213、1806.90-212、1806.90-213
 コーヒー調製品：2101.11-110、2101.11-190、2101.12-111、2101.12-112、2101.12-246
 調製した豆（加糖あん）：2005.40-191、2005.40-199、2005.51-191、2005.51-199
 ミルク調製品：1901.90-219、2106.90-283、2106.90-284
 ソルビトール調製品：2106.90-510
 その他調製品：2008.99.218、2106.90-590、2101.20-246、2106.90-252、2106.90-253、2106.90-281、2106.90-282、2106.10-219

表4 加糖調製品品目別輸入量（8月）

（単位：トン）

区分	輸入量	前年同月比 (増減比)	前月比 (増減比)
ミルク調製品	13,198	▲0.6%	23.4%
ソルビトール調製品	8,619	13.5%	▲0.1%
ココア調製品	8,195	6.8%	5.7%
調製した豆(加糖あん)	4,060	1.7%	▲11.1%
コーヒー調製品	64	38.6%	▲22.7%
その他調製品	4,826	▲0.6%	▲12.0%
合計	38,962	4.1%	4.7%

資料：財務省「貿易統計」
 注：端数処理の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

3. 異性化糖の移出動向

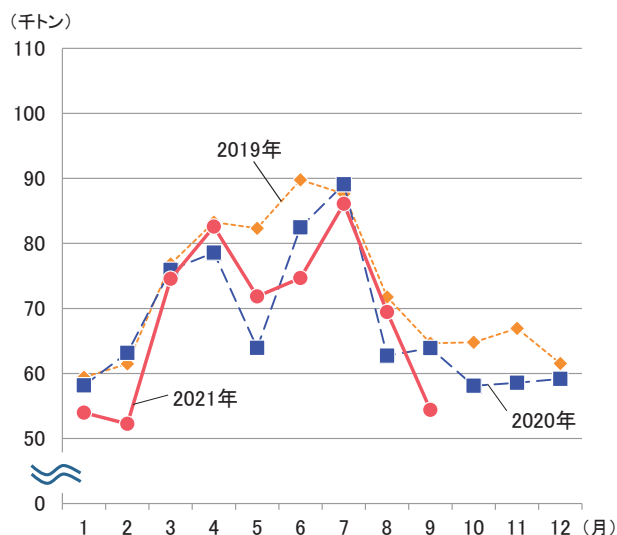
9月の移出量は前年同月からかなり大きく減少

2021年9月の異性化糖の移出量は、5万4401トン（前年同月比14.9%減、前月比21.7%減）であった（図9）。

同月の規格別の移出量は、次の通りであった（図10）。

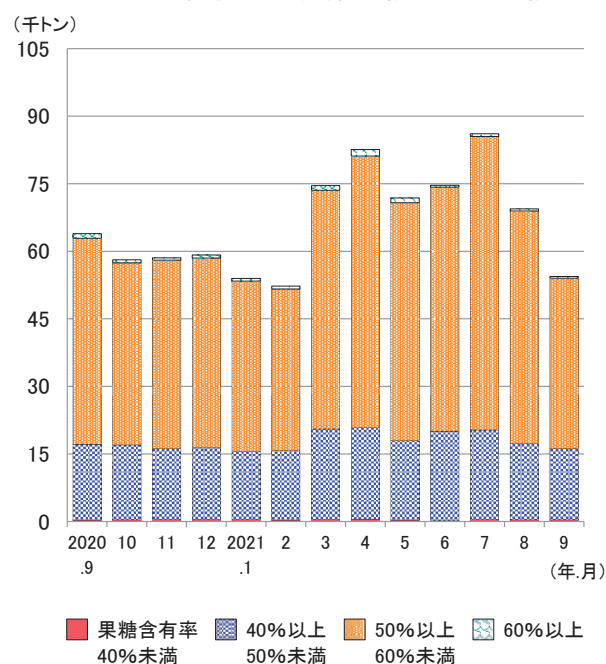
果糖含有率40%未満	368トン
（前年同月比13.4%増、前月比1.1%増）	
同40%以上50%未満	1万5889トン
（同5.7%減、同6.3%減）	
同50%以上60%未満	3万7783トン
（同17.4%減、同26.8%減）	
同60%以上	361トン
（同64.1%減、同24.9%減）	

図9 異性化糖の移出量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図10 異性化糖の種類別移出量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

4. 価格動向

【市場価格】

砂糖、異性化糖ともに前月と同水準で推移

9月の糖種別・地域別の砂糖価格（日経相場）は、次の通りであった。

上白糖（大袋）

東京	1キログラム当たり198～199円
大阪	同198～199円
名古屋	同202円
関門	同202円

上白糖（小袋）

東京	1キログラム当たり210～213円
大阪	同213円

本グラニュー糖（大袋）

東京	1キログラム当たり203～204円
大阪	同203～204円
名古屋	同207円

ビート・グラニュー糖（大袋）

東京 1キログラム当たり198～199円
 大阪 同198～199円
 名古屋 同200円

9月の異性化糖の価格（日経相場、大口需要家向け価格、東京、タンクローリーもの、JAS規格品、水分25%）は、次の通りであった。

果糖分42%もの

1キログラム当たり141～142円

果糖分55%もの

同147～148円

【小売価格】

9月の上白糖小袋の地域間の価格差は最大で37.5円

KSP-POSデータ(全国535店舗)によると、スーパーにおける9月の上白糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、194.2円（前年同月差5.4円高、前月差1.2円高）であった。最も高かったのは中国・四国で、最も安かった関東などとの価格差は37.5円であった。

同月の地域別^(注)の平均小売価格は、次の通りであった（表5）。

(注) 地域の内訳は、次の通りである（以下同じ）。

関東など：茨城県、栃木県、群馬県、長野県、山梨県、静岡県

首都圏：東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県

中部：新潟県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、三重県、愛知県

関西：大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、和歌山県、奈良県

表5 上白糖の地域別平均小売価格（9月）

(単位：円/kg)

地域	平均価格	前年同月価格差	前月価格差
北海道	202.2	11.1	▲ 0.7
東北	208.7	15.5	8.2
関東など	179.3	▲ 2.9	0.1
首都圏	185.6	4.9	▲ 3.1
中部	182.1	1.0	▲ 1.4
関西	193.5	▲ 1.5	1.9
中国・四国	216.8	12.4	5.2
九州・沖縄	189.4	1.9	▲ 0.5
全平均	194.2	5.4	1.2

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：KSP-POSデータ〈全国535店舗〉）

9月のグラニュー糖小袋の地域間の価格差は最大で84.6円

KSP-POSデータ(全国535店舗)によると、スーパーにおける9月のグラニュー糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、248.1円（前年同月差5.1円高、前月差1.4円高）であった。最も高かったのは東北で、最も安かった北海道との価格差は84.6円であった。

同月の地域別の平均小売価格は、次の通りであった（表6）。

表6 グラニュー糖の地域別平均小売価格（9月）

(単位：円/kg)

地域	平均価格	前年同月価格差	前月価格差
北海道	204.3	8.2	▲ 0.0
東北	288.9	13.2	5.3
関東など	250.2	▲ 1.7	▲ 2.0
首都圏	261.4	7.3	0.3
中部	253.9	3.3	2.5
関西	235.7	4.2	1.9
中国・四国	262.9	6.9	3.7
九州・沖縄	217.4	2.9	▲ 1.2
全平均	248.1	5.1	1.4

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：KSP-POSデータ〈全国535店舗〉）

9月の三温糖小袋の地域間の価格差は最大で66.4円

KSP-POSデータ(全国535店舗)によると、スーパーにおける9月の三温糖小袋(1キログラム)の平均小売価格は、234.1円(前年同月差1.0円安、前月差1.4円安)であった。最も高かったのは東北で、最も安かった九州・沖縄との価格差は66.4円であった。

同月の地域別の平均小売価格は、次の通りであった(表7)。

表7 三温糖の地域別平均小売価格(9月)

(単位:円/kg)

地域	平均価格	前年同月価格差	前月価格差
北海道	235.1	9.3	10.6
東北	269.7	17.2	12.1
関東など	216.5	▲3.2	4.8
首都圏	222.9	1.5	3.9
中部	231.9	4.1	0.3
関西	231.8	0.9	4.8
中国・四国	255.3	5.4	4.7
九州・沖縄	203.3	▲53.5	▲60.9
全平均	234.1	▲1.0	▲1.4

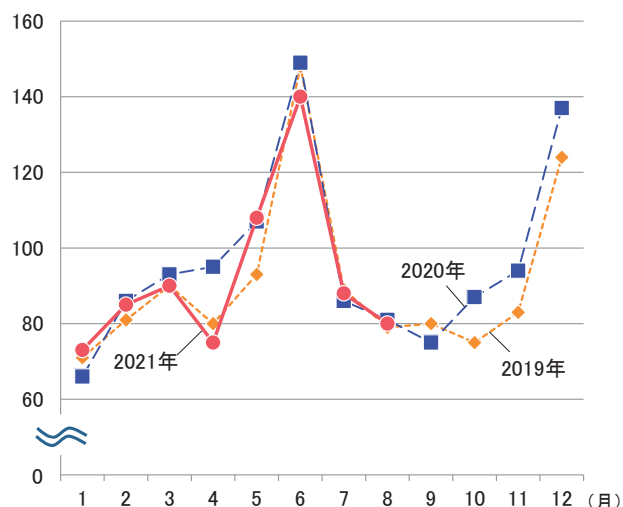
資料:農畜産業振興機構調べ(原典:KSP-POSデータ(全国535店舗))

【購入金額および購入量】

8月の砂糖の支出金額は前年同月からわずかに下落

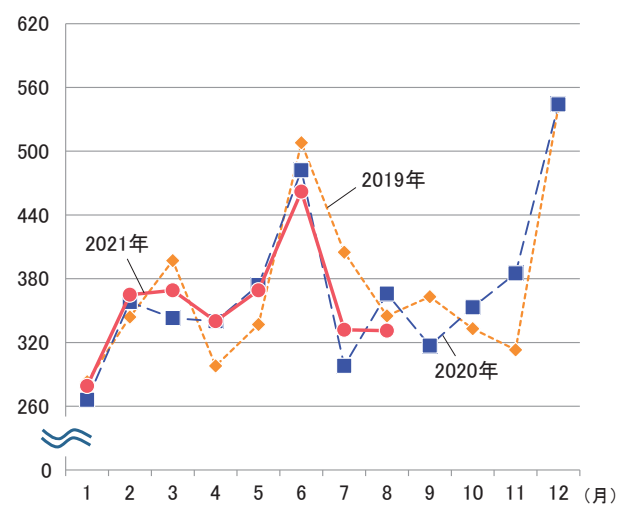
総務省「家計調査」によると、2021年8月における100世帯当たりの砂糖の購入頻度は32、1世帯(2人以上)当たりの支出金額は80円(前年同月比1.2%安、前月比9.1%安)であった(図11)。また、同月の1世帯当たりの砂糖の購入数量は、331グラム(同9.6%減、同0.3%減)であった(図12)。

図11 1世帯当たりの砂糖に係る支出額の推移(円)



資料:総務省「家計調査」

図12 1世帯当たりの砂糖の購入数量の推移(グラム)



資料:総務省「家計調査」